

## シリーズ

## “キラリ企業”

## の現場から 第66回

公社の様々な支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第66回は新製品開発を行う顧客のニーズに応え、デザイン(意匠)から設計支援、そして組み立て等の製造まで一貫して手掛けているオクト産業株式会社(板橋区)を紹介します。同社には中小企業R&D参入支援事業(注1)をご利用いただいています。

## 技術をカタチに!新製品開発のソリューションを提供する専門家集団

オクト産業株式会社

## 技術を知るデザイン会社

同社は、昭和52年に「安達工業デザイン事務所」として創業したが、その後、安達良平社長の「社員全員が研究者的な組織を作りたい」、「ヨーロッパにあるような研究開発型の会社を作りたい」という思いのもと、翌年10月に現在の「オクト産業株式会社」を設立する。

設立した当初より、製造現場を知ることで他社との差別化を図るため、金属や木、樹脂などの材料の加工技術、金型の製造のノウハウを習得。それにより、デザインから、設計・試作と一貫した



評価センターで使用する計器類

業務を行うことが可能となった。また、試作品の安全性や信頼性を試験したいという思いから、次に評価試験装置を設置し、実験、研究をするようになる。評価試験についての詳細は後述するが、同社はデザイン(意匠)・設計・試作・信頼性評価まで製品開発フローを知り尽くすことが可能となり、ロスやコストを最小限におさえた製造までできるようになった。

こうして無形な構想の段階から形あるものを創り出す企業として、顧客の様々な要望に応じている。

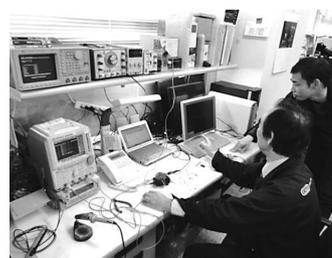
これまで同社が関わってきた製品は事務機器に始まり、様々な産業機器、カーステレオ、携帯電話、生活用品や文具類まで幅広い。また、顧客から要望があれば、販売促進ツールの開発や展示会・企業へのプレゼンテーション資料等の作成なども手掛けている。

顧客ニーズをカタチにできる  
「Turn-key Solution」

新製品開発における顧客の様々な要望に応え続けてきたことで、同社はそのすべての工程をこなす技術者とノウハウを有している。社員はそれぞれの得意分野で創意工夫をし、連携による高効率な新製品開発を短期間で行う。同社では、「Turn-key Solution」という標語を持って仕事に取り組んでいる。これは、自動車の鍵を回すとエンジンが始動するように(Turn-key)、顧客が手間をかけずにすぐに使用できる状態を提供するということである。その結果、顧客のニーズをスピーディーに満たすことができ、顧客からの満足度も高い。

例えば新製品の開発では、基礎的な理論や要素技術を研究した上で、あえて顧客からの仕様・規格を一度横に置いて原点から考えることもある。また、静電試験では、立派な設備をもってしても発生しなかった現象を身近なものを利用して発生させ、解決法を見つけ出したこともある。こういった積み重ねによって大手企業からも信頼され、一目置かれる存在となっている。

また公社の中小企業R&D参入支援事業を利用し、グローバル企業との共同開発を目指して新製品紹介などの提案営業活動を行っている。公社のコーディネーターも、同社



作業風景

の高い技術力を評価し、特殊素材の加工、電気回路設計、プレゼン資料作成等において企業紹介を行っている。

## 海外の規格にも対応している評価試験

同社では、「顧客の商品開発を支援するにあたって、安全性や信頼性の試験をしたい」という考えのもと、福島県に評価センターを設立した。これも「Turn-key Solution」の一つの形である。設計者とは全く異なる視点から製品を評価し、より良い新製品を作るため、開発部門と評価センターは別組織としている。また、より幅広く製品評価を手掛けようとISO/IEC17025(注2)に基づく登録試験事業者として国際MRA(注3)資格を保有し、その認定試験所となっている。

そして、さまざまな製品開発における耐久性・耐食性試験、強度試験等の一般試験を行うほか、電池類では、JIS/IECや韓国自立安全確認、国連勧告試験(国連の危険物輸送に関する規制勧告)に基づく電气的特性、安全性試験にも対応している。



オクト産業株式会社評価センターはISO/IEC17025に基づく登録試験事業者であり、国際MRA対応認定試験所です。登録番号090268JP

## リチウムイオン電池の評価と自社製造

同社で今一番力を入れている分野が「リチウムイオン電池」の評価と自社製造である。リチウムイオン電池は、私たちの生活に必要な携帯電話やノートパソコンに使用されており、今後EV(電気自動車)などさまざまな分野への利用が注目されている電池である。これまで主流だったニッケルカドミウム電池やニッケル水素電池等が抱えていた低電圧やメモリー効果を克服しており、環境にもやさしく、パワーがありながらも小型化が可能となった。しかし、一方で(現在ではだいぶ改良されてきたものもあるようだが)依然として溶剤に可燃性物質を用いるなど国内外で危険物扱いとなっている。特に中国や韓国ではこれらを搭載した機器や電池そのものの輸送(空輸、船舶輸送など)に認証機関が発行する書類が必要となる。中小企業においても今後リチウムイオン電池を搭載した製品が増えると予想されるが、大手企業ほどには認証や手続きについて習熟していない。



リチウムイオン電池

そういった意味で、同社が前出の評価センターと上海事務所を通じて行う認証や輸出手続き等のアドバイスは、多くの企業に必要とされるだろう。

さらに、リチウムイオン電池は、大手企業から大量ロットでしか購入できないと思われがちだが、同社では顧客の要望に応じた少量での製造や充電器の企画設計等も手掛けており、小回りのきく対応ができるのも注目すべき点である。

## 一人一人がエキスパート

最後になるが、同社を支えているのはなんといっても人材である。ある社員が「この会社は、(創業期の)ソニーのように、技術者にとってやりがいがある」と、社長がいなくてここで話してくれた。この会社には、斬新な仕事にも挑戦したいという技術者がより活躍できる組織風土や、使い手である「人」がいて技術は初めて輝くという理念がある。

また、直接取引のないさまざまな業界や人々とのつながりも大事にしており、社内外のエキスパートが同社を通して集い合い、新製品開発に取り組んでいる。

オクト産業株式会社の社名の由来は2つあり、1つは10月(OCTOBER)に会社を設立したこと。2つめは「オクトOCTO」がラテン語で「8」を意味し末広がり縁起が良い数字だということ。ここには「縁起もよく末広がりに」そして、「末広がりに成るよう高い志を持つ」との思いが込められており、日々、専門家集団が新製品開発に邁進している。

(総合支援課 桶口彩実)

(注1) 高度な技術力や生産管理能力を有する中小企業とグローバルメーカーのR&D部門との取引拡大を総合的に支援する事業。

(注2) 試験所及び校正機関の能力に関する国際基準規格。

(注3) MRAとは、適合性評価などの認定結果を複数国が互いに承認する取り決めのこと。ここでは特に、近年ILAC(国際試験所認定協力機構)やAPLAC(アジア太平洋試験所認定協力機構)において取り組まれている試験報告書・校正証明書の相互承認を指す。

企業名: オクト産業株式会社

代表者: 安達 良平

資本金: 1,000万円 従業員数: 38名

本社所在地: 東京都板橋区東新町1-49-16

TEL: 03-3958-0910

FAX: 03-3956-0062

URL: <http://www.octo.co.jp>